

表紙によせて

大作 晃一

スナヤマチャワンタケの写真は、
2006年6月5日撮影となっている。
科博のきのこ展準備をしていた細矢さんのところで撮影したので、
実際に生えてる姿は見えていない。
糟谷くんが持ちこんだと言っていたので、
もしかしたら蓮沼海岸あたりのものかもしれない。

蓮沼海岸へは、
クロマツ林が松枯れで壊滅的な状況になってからは、
きのこを見に行っていない。
かつては千葉菌類談話会の観察会を開催したこともある。
いつか、健全なクロマツ林が復活することを祈る。



スナヤマチャワンタケ
[砂山茶碗茸]

知っておきたい海浜植物

海岸に生えるきのこは、コウボウムギやコウボウシバなどが群落をつくる海浜砂丘が発見のカギとなります (p75 参照)。これらは同所に生え、名前も姿も似ていますが、花のつきかたで大別できます。きのこは植物と一緒に覚えることも大事です。〔編〕

左：コウボウムギ[弘法麦] カヤツリグサ科スゲ属

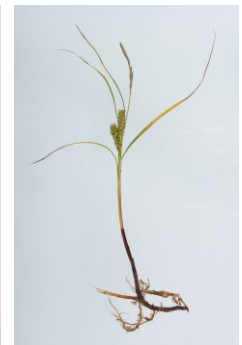
飛砂に埋もれながら太い地下茎を伸ばし一年ごとに株をつくる多年草。雌雄異株。花穂は長く残る。コウボウシバよりも大型。

右：コウボウシバ[弘法芝] カヤツリグサ科スゲ属

飛砂に埋もれながら地下茎を長く伸ばして匍匐しながら群落をつくる多年草。雌雄同株。茎の上部に雄花、下部に雌花がつく。コウボウムギより小型で華奢。



コウボウムギ (雌)



コウボウシバ